第 005 講 段落をまたぐ指示語のつながりを追う

学習目標

段落をまたぐ指示語の参照先を、前後の内容から確かめる。指示語が二つの段落の話題をどうつなぐかを読み取る。

読む前に｜今回の読解ルール

解説

指示語が出てきたら、まず前の段落まで戻り、その指示語が指しそうな行動や事柄を探す。**近くの名詞を機械的に選ばない**。次に、指示語の後ろに何が説明されているかを読み、候補の内容と一致するか確かめる。一致する情報を根拠にして指示先を決めよう。

指示語が指す**特定の行動や事柄**と、文章の二段落に共通する**より広い話題**は別のものだ。さらに、次の段落が前の段落に何を付け加えたかも区別して読む。

©ミライコーチング

英文を読む

英文

At our school, the music room is open to students during lunch, but only one group can use it at a time. Last year, several groups often arrived together, and some students spent most of lunch waiting outside the door. The music teacher wanted students to enjoy their break without arguing about whose turn came next. She asked them to find a clear way to show each group's time in the room. The students made a weekly schedule and put it on the wall beside the music room door. Each group wrote its name beside an open lunch period, so other groups could see which periods were already taken.

This method helped students find out when the room was free before going inside. They could read the names on the schedule and choose a period with no name beside it. For example, students looking for a free period no longer had to ask the teacher the same question every day. The teacher also noticed a change: before lunch, groups started choosing their practice times instead of deciding at the music room door. In other words, before lunch, they began deciding when to practice instead of making that choice at the door. The schedule did not make the room larger, but it helped students share the space more smoothly.

語注　schedule：予定表／period：時間枠／practice time：練習時間／instead of ～：～する代わりに／smoothly：円滑に

©ミライコーチング

読解問題

問 1

第 2 段落冒頭の **This method** は、第 1 段落に書かれたどのような方法を指すか。日本語で答えなさい。

問 2

This method の参照先を確定できるのは、第 1 段落の予定表の仕組みと、第 2 段落で生徒ができることがどのように対応しているからか。その対応を日本語で答えなさい。

問 3

This method を手がかりに、第 1 段落から第 2 段落へ引き継がれる、方法自体より広い話題は何か。日本語で答えなさい。

問 4

第 2 段落の **groups started choosing their practice times** を言い換えた連続する英語 6 語を、**In other words** で始まる文から抜き出しなさい。

問 5

第 2 段落は、第 1 段落の説明をどのように進めているか。二段落の役割の違いが分かるように日本語で答えなさい。

©ミライコーチング

解答・解説

問 1

模範解答

音楽室の扉のそばに週間予定表を掲示し、各グループが空いている昼休みの時間枠に名前を書き込む方法。

第 1 段落の最後の二文には、**made a weekly schedule and put it on the wall beside the music room door**（週間予定表を作り、音楽室の扉のそばの壁に貼った）、**Each group wrote its name beside an open lunch period**（各グループが空いた昼休みの時間枠の横に名前を書いた）とある。この二つを合わせて、予定表の設置と記入の方法を読み取る。第 2 段落冒頭の **This method** は、直前の「名前を記入する」という一動作だけでなく、予定表を使ったこの方法全体を受けている。
「予定表」という物の名前だけでは、**method（方法）** が何をする仕組みなのかまで答えられない。模範解答では、予定表の設置と記入の仕方を一つの方法として表している。

> **ミライポイント！**
>
> **指示語の参照先は、いちばん近い名詞とは限らない。前の段落にある行動のまとまりまで戻り、指示語の後に続く説明と合うか確かめよう。**

問 2

模範解答

第 1 段落で時間枠の横に各グループの名前を書くと説明され、第 2 段落では、その名前を見て、名前のない時間枠を選べると説明されているから。

第 1 段落の最後の文では、時間枠の横に書き込まれた名前が、すでに取られた枠を示す。第 2 段落では、**They could read the names on the schedule and choose a period with no name beside it.** とあり、予定表の名前を読み、名前のない枠を選べると説明している。つまり「名前の記入によって利用状況が分かる」という対応がある。
問 1 は**方法そのもの**を答える問題だが、ここでは**書き込みと読み取りが結び付くこと**が判断の根拠になる。指示語と参照先の関係を次のように追える。

第 1 段落の先行情報	第 2 段落の指示語	第 2 段落の後続説明
時間枠の横にグループ名を書く	→ **This method** →	名前を見て、名前のない枠を選べる

問 3

模範解答

複数のグループが昼休みに学校の音楽室を共有すること。

第 1 段落の冒頭には、一度に音楽室を使えるのは一グループだという条件があり、続いて利用の順番と予定表が説明される。第 2 段落では、その同じ音楽室をどう共有しやすくなったかが述べられている。

This method が直接指すのは予定表を使う方法だが、二段落に共通する話題は、その方法より広い「音楽室の共同利用」である。「時間枠に名前を書くこと」だけでは問 1 と同じ範囲になり、段落全体を覆えない。

問 4

模範解答

they began deciding when to practice

前の文の **groups started choosing their practice times** は「グループが練習時間を選び始めた」という意味で、次の文は **they began deciding when to practice** と言い換えている。**groups → they**、**started choosing → began deciding**、**their practice times → when to practice** の三か所が、同じ行動を表す。

両方の文で **before lunch** は「決める時点」にかかり、「昼休み前に練習する」という意味ではない。また、扉の前で決めるのではないという条件も両方に残っている。

抜き出しは **In other words, before lunch,** に続く **they** から始め、**practice** までの 6 語とする。後ろの **instead of** 以降は含めない。語数は **they(1) began(2) deciding(3) when(4) to(5) practice(6)** と数える。

ミライポイント！

言い換えを見つけたら、動作の意味だけでなく、「いつ・どこで・何をしないか」も比べよう。その条件がずれていなければ、表現が違っても同じ内容だと確かめられる。

問 5

模範解答

第 1 段落で音楽室の利用が重なる問題と予定表の作り方・使い方を説明した後、第 2 段落では、その方法によって空き時間を見つけやすくなり、練習時間を前もって決めるようになったことを示している。

第 1 段落は、複数のグループが同時に来て待つ状況から、予定表を掲示して名前を書き込む方法の導入までを説明する。第 2 段落では、名前のない枠を選べること、毎回先生に尋ねなくてよいこと、昼休み前に練習を計画するようになったことが続く。
したがって、答えは単に「二段落とも音楽室の話」とするのでは足りない。**方法を導入した説明から、その方法の働きと利用の変化を示す説明へ進んだ**という役割の違いを一文にまとめる。

©ミライコーチング

全文の構造分析

S＝主語、V＝動詞、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾要素。O₁・O₂＝第一・第二目的語。内側の句や節は S′・V′などのプライム付きで示し、さらに内側では S″・V″、S‴・V‴とする。内側は英文のすぐ下、外側の S・V・O・C・M はその下に示す。〈　〉は名詞句・節、〔　〕は形容詞句・節、(　) は副詞句・節のまとまりを表す。読解問題では記号を答える必要はない。

役割色: S 主語 / V 動詞 / O 目的語 / C 補語 / M・その他 修飾等

(At our school), 〈the music room〉 is 〔open to students〕 (during lunch), but

〈only one group〉 can use it (at a time). (Last year), 〈several groups〉 often arrived

(together), and 〈some students〉 spent 〈most of lunch〉 (waiting (outside the door)).

〈The music teacher〉 wanted 〈students〉 to enjoy 〈their break〉 (without arguing about

〈whose turn came next〉). 〈She〉 asked 〈them〉 to find 〈a clear way

〔to show 〈each group's time 〔in the room〕〉〕. 〈The students〉 made 〈a weekly schedule〉

and put 〈it〉 (on the wall 〔beside the music room door〕). 〈Each group〉 wrote

〈its name〉 (beside an open lunch period), so 〈other groups〉 could see

〈which periods were already taken〉.

役割色: S 主語 / V 動詞 / O 目的語 / C 補語 / M・その他 修飾等

〈This method〉 helped 〈students〉 find out 〈when the room was free〉
S V O V′ M″ S″ V″ C″
O′
C

(before going inside). 〈They〉 could read 〈the names 〔on the schedule〕〉 and choose
V″ M″ S V O V
M′

〈a period 〔with no name beside it〕〉. (For example), 〈students 〔looking for
O M V′
S

a free period〕〉 (no longer) had to ask 〈the teacher〉 〈the same question〉 (every day).
O′ M V O₁ O₂ M

〈The teacher〉 also noticed 〈a change〉: (before lunch), 〈groups〉 started 〈choosing
S M V O M S V V′
O

〈their practice times〉 (instead of deciding (at the music room door))〉. (In other words),
O′ V″ M″ M
M′

(before lunch), 〈they〉 began 〈deciding 〈when to practice〉 (instead of making
M S V V′ M″ V″ V″
O′ M′
O

〈that choice〉 (at the door))〉. 〈The schedule〉 did not make 〈the room〉 larger, but 〈it〉
O″ M″ S V O C S

helped 〈students〉 share 〈the space〉 (more smoothly).
V O V′ O′ M′
C

一文ずつの対訳

対訳

At our school, the music room is open to students during lunch, but only one group can use it at a time.
私たちの学校では、昼休みに生徒が音楽室を使えるが、一度に使えるのは一つのグループだけだ。

対訳

Last year, several groups often arrived together, and some students spent most of lunch waiting outside the door.
昨年は複数のグループが同時に来ることがよくあり、扉の外で待っているうちに昼休みの大半が過ぎてしまう生徒もいた。

対訳

The music teacher wanted students to enjoy their break without arguing about whose turn came next.
音楽の先生は、生徒たちが次は誰の番かで言い争うことなく、休み時間を楽しめるようにしたいと思っていた。

対訳

She asked them to find a clear way to show each group's time in the room.
先生は生徒たちに、各グループが音楽室を使う時間を分かりやすく示す方法を考えるよう頼んだ。

対訳

The students made a weekly schedule and put it on the wall beside the music room door.
生徒たちは週間予定表を作り、音楽室の扉のそばの壁に貼った。

対訳

Each group wrote its name beside an open lunch period, so other groups could see which periods were already taken.
各グループは空いている昼休みの時間枠の横に自分たちの名前を書き込んだので、ほかのグループはどの枠がすでに取られているかを確認できた。

©ミライコーチング

対訳

This method helped students find out when the room was free before going inside.
この方法のおかげで、生徒たちは音楽室に入る前に、いつ部屋が空いているかを確かめられるようになった。

対訳

They could read the names on the schedule and choose a period with no name beside it.
生徒たちは予定表に書かれた名前を見て、その横に名前が書かれていない時間枠を選べた。

対訳

For example, students looking for a free period no longer had to ask the teacher the same question every day.
例えば、空いている時間枠を探す生徒たちは、毎日同じ質問を先生にする必要がなくなった。

対訳

The teacher also noticed a change: before lunch, groups started choosing their practice times instead of deciding at the music room door.
先生はまた、グループが音楽室の扉の前で決める代わりに昼休み前に練習時間を選び始めた、という変化にも気づいた。

対訳

In other words, before lunch, they began deciding when to practice instead of making that choice at the door.
言い換えると、各グループは扉の前でその選択をする代わりに、昼休み前に、いつ練習するかを決め始めたのだ。

対訳

The schedule did not make the room larger, but it helped students share the space more smoothly.
予定表によって音楽室が広くなったわけではないが、生徒たちがその場所をより円滑に共有する助けになった。

©ミライコーチング